

イギリス的な情景

— the scenes in Britain —

早稲田大学 教授
小田島 恒志

(第32回)

肩こり

昔、ロンドンの地下鉄のホームに妻と二人で立っていたら、いきなり腕にタトゥーのあるおじさんから「パンクだろ？」と声を掛けられた。当時、パンクロックがまだまだ流行っていて、街中で典型的なパンクファッションの（ハリネズミのような頭の）おじさんが、次の人のためにちゃんとドアを抑えて待っているというイギリス人らしさを見せるのを見て驚いたりもしていたのだが、自分に「パンク」の要素があるとは思えない。いや、音楽に関係なくパンクなやつ、と言えば、ヘンなやつ、ということだから、さては絡まれたか、と思いつつ、はい、何ですか？と聞いてみて、氷解した。実は、この時、肩こりの酷い妻の肩（背中）を後ろから親指を立てて押していたのだが、それを見た彼が「ああ、知ってるそれ、アキュパンクチュア（acupuncture）ってやつだろ？」と言ってきたわけだ。「アキュパンクチュア」＝「鍼治療」という単語を知らなかったし、そもそも肩もみと鍼とは別物だろう、という言い分もあるのだが、彼から見れば、いかにも鍼の本場中国から来たと思いき東洋人（日本人ですけど）が、こんなところで「治療」をしていたのだから、興味をそそら

れたのも無理はない。いやいや、それほどのものではありませんが、とその場は笑ってごまかした。

アキュパンクチュアのパンクチュア（puncture）は「針を刺して穴をあける」という意味で、タイヤの「パンク」のことだが、実際にパンクした時は「flat tire（べしゃんこのタイヤ）になった」という表現を使うので、「パンクチュア」という語を耳にすることはめったにない。ちなみに、ハリネズミのような頭をしてはいても、ロックのパンク（punk）は「針」とは関係ないらしい。

この時、おじさんが興味を持ったのは、イギリス人には「肩こり」に悩む人がそうはいない、ということも関係あるようだ。マッサージという術はあっても、「こりをほぐす」というのとはちょっと違う。ある時、車を運転していて、路上に「No hard shoulder」という標示があるのを見て驚いた。「へー、この道路は肩がこらないんだって、ありがたいね」と妻と面白がったが、いや、「No Smoking」みたいに、肩こりの人運転禁止という意味では…？と不安になった。やがて、「（この先）路肩がなくなります。（運転注意）」の意味だとわかったが、おかげで肩がこってしまった。